

第三者評価結果報告書

総括	
対象事業所名	アイン弘明寺保育園
経営主体(法人等)	中央出版株式会社
対象サービス	保育分野
事業所住所	〒232-0061 横浜市南区大岡2丁目16-5
設立年月日	平成25年4月30日
評価実施期間	平成27年9月 ～ 28年2月
公表年月	平成28年7月
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
評価項目	横浜市版
総合評価（事業所の特色や努力、工夫していること、事業者が課題と考えていること等）	
【アイン弘明寺保育園の立地・概要】 アイン弘明寺保育園は横浜地下鉄線弘明寺駅から徒歩で4分程度の鎌倉街道・旧道に沿った場所にあります。この辺りはもともと鎌倉街道（国道16号線）から1路程度東に入った旧鎌倉街道に沿って栄えたところであり、加えてこのあたりは弘明寺観音の門前町としての繁栄したところです。近くに横浜国立大学付属学校、大岡公園などがあり、京浜急行の拠点駅・上大岡駅が隣駅で共に開発が進んでいます。地域は商業地（含む門前町）などの都心機能と住宅地が混在した地域ですが、商店街の中心を横切って流れる大岡川は桜並木、散策路が整い、市民の憩いの場所となっています。 アイン弘明寺保育園は現在、定員70名の中規模園で、園舎は3階建の広い屋上を備えた建物であり、1階には事務室、厨房、0歳児室、ホールがあり、2階には幼児室（1歳～2歳保育室）、3階に幼児室（3～5歳保育室）を配置し、屋上に園庭を設けています。アイン保育園の「アイン」の意味は、1つ目は『ドイツ語の「1」：いちばんの子育てセンター、いちばん愛される園』、2つ目は『「愛+in」：子どもたちに愛情を込めて』、3つ目は『アインシュタインの「アイン」：教育を実践して、未来を担う子どもたちの育成』の3つで構成されており、具現化を目指した保育を進め、園のロゴも「アイン」の意味を込めて示されています。	
【アイン弘明寺保育園の保育の方針】 アイン弘明寺保育では、昨年度の事業理念の『知・徳・体』の「生きる力」を継続し、新しい事業理念として『遊びと学びは仲良し』を掲げ、保育の質の向上を根幹に、「遊びと学びは仲良しをモットーに」、「学ぶ楽しさをいっぱい感じてもらう保育」を展開しています。保育目標は、「好きな遊びをみつけてお友達と楽しくいっぱい遊べる子ども」、「いろいろなものに興味をもち、意欲的に挑戦する子ども」、「思いやりの心をもった優しい子ども」とし、『自由保育』・『モンテッソーリ』・『共育』をコンセプトとして保育を推進しています。特に、「モンテッソーリメソッド」は、イタリアの女医で教育家のマリア・モンテッソーリが創始者であり、大人が教えるのではなく、子どもが自らの力で育って行こうとする「内面の成長」を生かす教育方法で、アイン保育園の保育の柱となっています。教育教材は、中央出版株式会社で製造販売されている教材と、他社のモンテッソーリ遊具も活用して教育にあたっています。	
【優れている点】 1. モンテッソーリ教育の推進 アイン弘明寺保育園で展開しているモンテッソーリ教育の特徴は、「自由に個別活動をする」、「子どもの中の自主性を重んじる」、「異年齢保育で活動する」です。「自由に個別活動をする」では集団で同じことをするのではなく、自由に個別活動を行い、自分自身で活動を選び、自分のリズムで、納	

得のいくまで繰り返し活動しています。「子どもの中の自主性を重んじる」では、子どもの知的好奇心が自主的に表れるよう、「自由な環境」設定を重視して子どもに提供しています。「異年齢保育で活動する」では異年齢混合のクラスの中で、子どもたちがお互いから学び合う機会を大切にしています。アイン弘明寺保育園は、年齢保育を中心に、異年齢保育に力を入れ、モンテッソーリメソッドの教育を核とし、整備された環境の中で、子どもたちは達成感、満足感、自信、集中力を高め、生きる素地を身に付けています。

2. 本部機能の活用による職員の資質向上の取り組み

アイン弘明寺保育園を初めとして、中央出版株式会社保育事業本部（以下、法人本部）と系列全園が一貫して、職員の資質向上を最優先課題として保育士のレベルアップに取り組んでいます。法人本部では各保育士の年間目標を設定した目標管理を導入し、年2回、園長面談と、年1回法人本部面談を実施し、年度末には各保育士の達成状況、反省点を確認し、次の課題につなげて質の向上につなげています。さらに、研修・教育の充実を図り、夜間の小研修を年4回実施し、法人本部主催の1日間研修を年2回、日曜日に実施する他、内部研修の充実にも力を入れて研鑽を図り、保育士のステップアップに取り組んでいます。内部研修には非常勤職員も参加し、正規職員と同様に質の向上を目指しています。特に、モンテッソーリメソッドの教育を推進するために、保育士のボトムアップが重要と考え、これら研修の充実と実務上のOJT教育により、保育士は順調に成長しつつあります。

3. コンセプトである「共育」の推進

アイン保育園の運営において、「コンセプト」となっている『共育』の語源は、子ども、保護者、地域の方々と保育園を含む法人本部関係者が、互いに助け合い、勉強しながら「共に育っていく」という想いで創られた言葉です。また、子どもは年齢別クラスや異年齢保育を通して様々な子どもたちと共に育ち、保育士も保護者も子どもをサポートしながら共に成長して行きます。『共育』の保育は、年間指導計画の中に随所に取り入れ、実践しています。保護者へは、『共育』の考え方について入園のしおりに明示し、保護者懇談会（5月）で説明を行い、園だよりにも掲載して理解を促しています。園では、朝（7:00～8:30）と夕（16:00以降）は合同保育を行い、大きな家庭、たくさんの兄弟として、上の子・下の子・真ん中の子どもが互いに支え合い、育み、『共育』が実践されています。

【さらなる期待がされる点】

1. 更なる子ども自立の援助

前述のようにアイン弘明寺保育園は、子どもたちの自立を促し「共に育っていく」保育を目指しています。子どもの自立のために、子ども自身が周囲の大人や子どもたちから刺激を受け、意欲につなげ、子ども自身ができる範囲を広げていく過程を『共育』で支え、育む保育を進めています。また、子ども同士で、教え、学んで行く姿を目指し、保育士は見守っています。子ども同士のかかわり・学びから、子ども一人一人が「自立」を体得していくよう推進に取り組んでいます。今後さらになる実現に向けて、バックアップをする保育士一人一人の研鑽と共に、子どもが自立して「子ども自身ができる保育」の成果を期待しています。

評価領域ごとの特記事項

1. 人権の尊重

- アイン保育園の事業理念は基本方針に沿い、「遊びと学びは仲良し」であり、園目標は、「好きなあそびをみつけてお友達と楽しくいっぱいあそべる子ども」、「いろいろなものに興味をもち、意欲的に挑戦する子ども」、「思いやりの心をもった優しい子ども」とし、利用者本人を尊重した内容になっています。理念・法人・園目標は、事務室、廊下など、常に目にする場所に掲示し、職員に対しては、モンテッソーリ教育（大人が教えるのではなく、子どもが自らの力で育って行こうとする「内面の成長」を生かす教育方法）を根幹に保育を推進する環境を整え、園内研修を行い、非常勤職員も含めて理解を深めています。保育課程に基づき、年齢ごとに年間指導計画を作成し、月間指導計画を立てて保育を実践しています。
- 個人情報の取り扱いや守秘義務については、マニュアルに沿って、定義・目

	<p>的について具体的に事例を挙げて全職員に説明し、周知しています。ボランティアや実習生にもオリエンテーションで説明し、誓約書を提出してもらっています。個人情報の取り扱いについては、保護者に説明し、特に、肖像権については留意し、同意書ももらっています。個人情報に記載されている文書は、外部持ち出しを禁止し、施錠できる場所に保管、管理しています。</p> <p>●性差に関する配慮では、遊びや行事での役割、持ち物や服装での区別や、グループ分けや整列も性別で分けをすることはしていません。また、教材は子どもが好きな色を選択できるように配慮しています。子どもや保護者に対して、父親・母親の役割を固定的に捉えた話し方や表現はしていません。職員は、無意識な固定観念的な発言は互いに注意し合う体制を整えています。</p>
<p>2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供</p>	<p>●新入園児の受け入れの際は、短縮保育（ならし保育）を行い、保護者の事情や子どもの様子に応じて臨機応変に対応するようにしています。新入園乳児（0、1歳児）では、保育士はグループ担当制を採用し、特に主担当保育者は定めていませんが、全体で子どもを見守っています。進級時は持ちあがりの担当が担当するよう配慮しています。進級時は、異年齢保育を実施し、子ども同士、保育士が交流を図れるよう活用しています。指導計画は、子どもの自主性・主体性を育て、発揮できるような指導計画とし、計画は柔軟性を持たせています。</p> <p>●モンテッソーリメソッドを基に2歳児からカリキュラム（日常生活、感覚、言語、算数、文化の分野別）を作成し、年齢や発達に応じた遊びの環境を整えています。乳児では、発達に沿った手作りの玩具の試作に取り組んでいます。</p> <p>●保育の基本方針について、保護者に対してクラス懇談会で説明し、「園のしおり」、「パンフレット」、保育方針を記載し、園目標は保護者の目に留まるところに掲示して内容の理解を促しています。年2回、法人本部により「保育所に関するアンケート」を実施し、行事後もアンケートを行い、保育方針が理解されているかを把握しています。また、園だよりや連絡帳を通して保育方針を伝えています。</p> <p>●保護者との情報交換では、園生活の様子や活動内容は、幼児はホワイトボードを活用してその日の子どもの様子を記載して情報を伝えています。乳児は連絡帳を活用し、出席カードおよび口頭で密に情報交換を行っています。また、園のホームページでは保護者が書き込むことができるようになっています。</p> <p>●園生活に関する情報は毎月、園だよりを発行し、月により掲載内容を考慮して情報を伝えています。園内での情報提供は、ホワイトボード、連絡ノート、出席カードで伝えています。また、ホームページのブログで園の活動内容の写真が見ることができ、自主的な購入も可能としています。クラス懇談会では、保育内容・目的について、資料を交え、園での様子をわかりやすく伝えています。欠席者には、懇談会の内応を書面にし、資料や口頭で伝えています。</p>
<p>3.サービスマネジメントシステムの確立</p>	<p>●障害児保育のための環境整備では、バリアフリーを備え、オストメイト対応のトイレも設置して環境を整えています。関係機関との連携では、南区役所の保健課、横浜市中部地域療育センター、横浜市中部児童相談所と必要に応じて相談・指導を受けられる体制を構築しています。職員は、地区の分野会議（3か月に1回程度）での事例を話し合い、障害児研修を受講し、横浜市中部地域療育センターの指導を受け、得た情報はファイリングして職員間で共有しています。</p> <p>●アレルギー疾患のある子どもの除去食対応では、かかりつけ医からの指示に従い、保護者と連携を密にして適切に対応しています。全職員に、アレルギー疾患について必要な知識や情報を周知し、職員は把握しています。給食時は、</p>

アレルギーを記入したシール付の専用トレイを使用し、誤食がないよう徹底しています。

●文化が異なる子どもへの対応については、文化や生活習慣、考え方の違いを尊重し、モンテッソーリの教育を通して積極的に文化教育として取り組み、各国の挨拶や言葉などを伝え、自然に身近に様々な文化に触れられる環境作りをしています。外国籍に係る保護者へは、英語対応の案内を用意し、必要があれば横浜国立大学付属学校の留学生と交流があり、通訳ボランティアとして依頼できる体制にあります。

●保護者からの苦情などに関して、園のしおりに記載し、第三者委員を明示し、園内にも貼り出しています。また、適正化委員会等の他機関の苦情解決窓口も紹介しています。保護者から要望や苦情が言いやすいよう、玄関に意見箱を設置し、行事後には保護者アンケートを行い、年2回、法人本部による全体アンケートを実施しています。意見箱での意見については、報告、開示を行った実績があります。意見を表明するのが困難な保護者には、園長、主任は保護者と信頼関係を深めるようコミュニケーションに努め、相談や要望が言いやすい環境作りに配慮し、個別面談は随時、受け入れています。子どもに対しては、日常の様子を把握し、態度や表情から意向を汲み取るようにしています。

●健康管理では、健康管理マニュアルに基づき、内科健診（年2回）、歯科健診、尿検査、蟯虫検査、視聴覚検査を実施しています。毎朝、子どもの健康状態や、食欲、体温、排泄などを確認し、乳児は連絡ノートで確認し、保護者に口頭でも聞いています。既往症、予防接種の状況は健康台帳に記載し、職員に周知を図り、緊急時に備えています。歯磨きについては、0歳児は食事後にうがいを行い、歯が生え始めたら歯磨き指導を実施し、1歳児は保育士が仕上げ磨きをしています。年長児は赤染めを行い、磨き残しを確認しています。また、歯科医による歯磨き指導を受け、適切な健康管理に努めています。

●外部からの侵入に対して、定期的に不審者を想定した防犯訓練を実施しています。園の玄関は電子ロックになっており、事務室内から出入りを確認ができます。また、警備会社に委託契約をして緊急時対応を万全にしています。不審者情報は警察署から入手しています。

4.地域との交流・連携

●地域の子育て支援サービスのニーズを把握する取り組みでは、南区の子育て支援事業への参加（講習会、研修会）を通して把握に努めています。また、地域のイベントに参加し、地域の方から園に対する要望・意見を聞き、関係機関や他保育園との検討会や研究会に出席して情報・ニーズを収集しています。相談事業では園見学者から相談に応じ、要望があった場合は、都合に合わせて柔軟に個別対応をしています。

●地域住民に対する園の情報提供については、育児相談があることを園見学者に周知し、入園に関する情報も提供しています。育児支援のお知らせや保育園情報は、南区子育て情報サイト、広報よこはま南区版に詳細に掲載され、分かりやすく情報が提供されています。相談内容による関係機関との連携では、地域の団体のリストを整備し、関係機関（南区役所福祉課、保健課、中部地域療育センター、中部児童相談所、警察、嘱託医等）とは密に連携を図り、担当は園長としています。

●地域への園の理解促進のための取り組みとして、行事（夏祭り、敬老の日）に町内会長、キララ会（地域の老人会）の方々を招き、園の取り組みや子どもの様子を見てもらう機会を設けています。また、幼保小連絡会の連携、町内会、小学校との交流を図っています。

●近隣保育園との交流保育に参加した親子が園見学に来たり、地域の学生をアルバイトで採用する等、地域への働きかけを行っています。さらに、地域での

	<p>買い物や散歩の道中では地域の方に積極的に挨拶を行い、親しく交流しています。</p> <p>●ボランティアの受け入れでは、マニュアルを用意し、担当者は主任または園長とし、事前にオリエンテーションを行い、保育方針、心得、留意事項を説明し、理解を促しています。職員および保護者にも伝え、理解を示してもらっています。終了後は、反省会を設け、感想や意見を園運営に反映させています。</p>
<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<p>●職員の守るべき規範は、「運営マニュアル」に明文化され、職員に周知しています。開園時には全職員に教育を実施しています。経営、運営状況は、法人のホームページで公開されており、事業計画・事業報告については要求に応じて開示しています。園長会などで収集したコンプライアンス事例を題材に研修を行い、職員は職員会議やミーティングで守るべき規範について再確認しています。</p> <p>●環境整備では、モンテッソーリの環境配慮の考え方を明文化し、リサイクルや分別について、「イーオ3R夢塾」から来園してもらい、子どもたちにクイズや紙芝居を通して資源の大切さを分かりやすく伝えています。ゴミ分別は子どもたちと共に実施しています。省エネ対策としては、節電や、LEDの推進、冷暖房の設定温度に注意を促し、実践しています。また、CO2削減のためIHコンロを採用しています。緑化推進については、屋上庭園にプランターを用いて栽培を楽しみながら緑化を進めています。</p> <p>●理念・基本方針は明文化し、玄関、事務室に掲示し、来園者や保護者などが目に触れるようにしています。職員に対しては、配布を行い、朝礼、会議等でわかりやすく説明し、周知しています。園長は職員の面接時（年2回）に、理念・基本方針の理解度を確認し、意識統一に努めています。</p> <p>●中・長期計画については、法人本部で3年間の事業の方向性が決定され、27年度の目標は「モンテッソーリ教育を推進する（定着）」であり、0～3歳児のモンテッソーリ教育研修を職員が受講する計画を進めています。さらに、文化教育の受講や、モンテッソーリの学会に出席する計画を立てています。園長は、運営やサービスプロセスの新たな仕組みを常に検討し、人員不足解消に向けて、園独自で新組織体系を定め、他園の応援体制の構築に取り組んでいます。</p> <p>●次世代の育成では、新組織体系の中から計画的に後継者の育成を進めています。外部からの助言・指導等については、法人顧問弁護士、英語講師、第三者委員などの意見を取りいれて運営に生かすように努めています。加配については、南区や専門機関の意見の助言を受けています。</p>
<p>6.職員の資質向上の促進</p>	<p>●人材の確保については、法人本部で必要な人材の補充を逐次実施しています。人材育成については、人材育成計画を策定し、系列全園で実施しています。正規職員は人材育成制度があり、各職位（コース、管理者、専門職等）の年間目標を設定し、計画を立案して年度末には達成状況や反省を確認し、資質向上を図っています。研修体制については、大研修（年2回）、小研修（隔月）、外部研修（不定期）を設け、経験年数や役割に応じて、正規職員、非常勤職員が選択して受講できるようにしています。園長は、MEC（モンテッソーリ推進委員会）に所属し、情報交換を行い、園の運営に生かしています。</p> <p>●非常勤職員の配置や業務内容については、必ず、正規職員と非常勤職員の組み合わせとし、年度当初には非常勤職員の会議を設け、併せて教育も行い、必要な知識と情報を提供しています。また、研修報告書を確認して正規職員と共有化を図り、資質向上を目指しています。非常勤職員の指導は、主任またはリーダーが行っています。園長は、非常勤職員から要望や意見を聞き、コミュニ</p>

ケーションを図り、園の円滑な業務につなげています。

●園では人事考課制度に沿って、目標を決め、「保育士の自己評価」を行っています。保育日誌、実践記録（モンテッソーリ教育に関して）からも自己評価を行い、自己評価チェックを活用して1年間を振り返り、翌月・翌年の保育につなげています。職員は、保育の柱であるモンテッソーリ教育について社内外の専門家から手法を学び、系列他園の事例を検討して、質の向上に取り組んでいます。